

トマト夏秋栽培での優良品種と高品質化技術

農業試験場

[研究のねらい]

県内準高冷地の夏秋トマト産地では、収量性を重視した品種導入や夏季の高温化により、裂果の多発や糖度不足が問題となっています。そこで、裂果の少ない高糖度品種の選定ならびに、高品質化技術として畝間へのタイベック敷設や遮光資材による被覆効果について明らかにしました。

[研究の成果]

1. 「桃太郎サニー」と「みそら 64」は、「りんか 409」と比べて裂果が少なく果実糖度が高い品種です(表1)。
2. タイベックマルチ(タイベックソフト 幅 150cm)を畝間に敷設すれば果実重は小さくなりますが、糖度が高くなります(図1)。
3. 簡易な雨よけ施設に遮光資材(クールホワイト 520SW: 遮光率 35~40%)を被覆すれば、日中の温度上昇(データ省略)と日射が軽減され、日焼け果や裂果の発生が軽減されます(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は、準高冷地での簡易雨よけ施設を利用した夏秋トマト栽培に適用できます。
2. タイベックマルチを敷設する際には、雨水が溜まらないように排水路を確保して下さい。

表1 夏秋栽培用トマト品種の収量と果実品質

品種	収量		果重 (g/個)	糖度 Brix (%)	裂果率 (%)
	(kg/株)	(果/株)			
桃太郎サニー	4.35	29.2	146	6.3	4.0
みそら64	4.45	29.8	149	6.3	2.8
CF桃太郎ヨーク	3.85	26.2	147	6.2	5.9
麗夏	4.59	30.7	149	5.9	3.3
りんか409(対照)	4.39	30.4	145	6.0	9.0

注) 定植: 2012年6月1日、畝幅160cm、株間40cm、2条植え、簡易雨よけあり、
試験地: 有田川町生石、収穫調査期間: 7月18日~11月29日(3S未満の果実は除外)

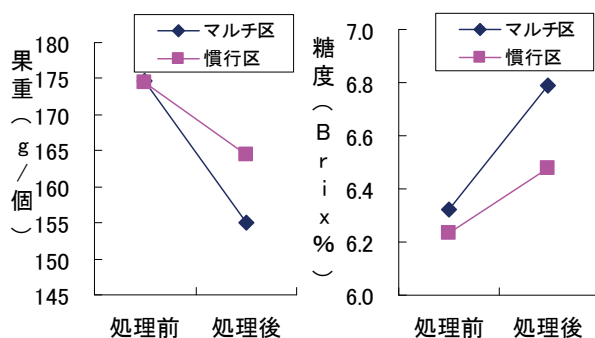


図1 タイベックマルチの畝間敷設がトマトの果実品質に及ぼす影響

注) 敷設日: 2012年8月19日、簡易雨よけあり、
品種: りんか 409、試験地: 有田川町生石
※調査期間: 処理前: 7月24日~8月19日
処理後: 8月20日~11月29日

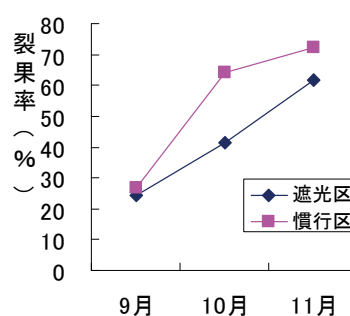


図2 遮光処理がトマトの裂果発生に及ぼす影響

注) 慣行区: 簡易雨よけのみ
遮光区: 簡易雨よけ+遮光処理
遮光処理: 2012年8月29日~11月21日
品種: りんか 409、試験地: 有田川町生石
調査期間: 9月2日~11月21日

(問い合わせ先 0736-64-2300)